かさおか

発行所
天理教笠岡大教会
かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66−1311
FAX 66−1314

特集

天理教婦人会
婦人会長様御臨席
第24回 笠岡支部総会

立教182年6月23日(日) 午前10時

陽気ぐらしを目指して、たすけの輪を広げよう

今一手一つに、一歩一歩！

＊一教会、初席者一名以上
＊おさづけを身近に
＊百万件のにをいがけ

創立百三十周年記念祭並六代会長就任奉告祭

立教184年(2021年)10月24日 執行

立教183年 2月号

天理教婦人会は、来たる4月19日、創立110周年記念第102回総会を開催する。

これに先立ち、教祖130年祭がつとめられた4年前、第98回総会の席上、婦人会長様は「年祭活動の動きを止めることなく前へ進ませて頂きたい」として、活動方針に「百万会員を目指して」と、大きな目標を掲げられた。

その上で、委員部長・会員にも活動方針に込めた思いをしっかり分かってもらい、実動につなげてもらいたいとの深い親心から、初めて婦人会本部より全直属支部へ巡回がなされた。

続いて、翌年の第99回総会では「百十周年記念総会には、百万会員を目指した真実の歩みをご報告できるよう」と促された。

笠岡支部においては、これに向けて、昨年6月23日、19年振りとなる婦人会長様にご臨席をいただいての支部総会を企画。予め、笠岡支部長より大教会役員会議でその旨を諮り、役員一同から「大教会記念祭2年前のことなので、大教会を挙げて支部総会に力を入れ、その勢いで記念祭を迎えよう」と相談が整った。

これにより、笠岡支部では、前回（第23回）の倍の参加者＝千名を目指して、支部総会の日を迎えることとなったので、本会記念総会まで2ヶ月余りとなったこの旬に、本部総会を目指してのラストスパートを期すべく、笠岡支部総会の総括記事を掲載する。

おつとめまなびをつとめ終え、神殿正面にて記念撮影

本日は天理教婦人会笠岡支部第二十四回総会を開催され誠におめでとうございます。

皆様方には、日頃は土地所において、お道のご用、そして婦人会活動の上に心を込めて懸命におつとめくださり、誠にご苦労様でございます。

天理教婦人会は明治四十三年一月二十八日に、婦人の成人を急き込まれる親神様の深い思召から、創設され、来年、創立百十周年を迎えます。この節目の旬に、婦人会の創設の思召と使命をしっかり自覚し、女性の得分を活かして、思召される陽気ぐらし世界の実現に向かってその役割を果たす努力をすることが大切だと思うのでございます。

昨年の第百回総会で 真柱様は、「導いた人が教祖の手足となって働かせてもらえるまでに育つよう、時に応じて言葉をかけたり、一緒に行動したり、時には黙って見守りながら心を込めて常日頃の世話取りをしていくことは、女性の得分を活かす道ではないかと思うのであります」とお話になり、そして、「道の婦人同士が親神様の思召一つに心を寄せて、親身に談じ合いながら、互いに助け合える仲間を丹精していく、これも婦人会の活動に大切な柱の一つではないかと考えるのであります」と、婦人会員の役割と婦人会の活動の柱についてお諭し下さいました。

婦人会の掲げる「**ひながたをたどり 陽気ぐらしの台となりましょう**」との成人目標は、教祖がおつけくださったたすけ一条の道を信念を持ってしっかりと通らせて頂き、教祖御自らお通りくださった手本ひながたを素直に実行して、親神様の望まれる陽気ぐらしの台を目指すということです。まずは家庭や教会の陽気ぐらし、また職場、それぞれの集まりの中の陽気ぐらしの源となる女性を目指していきたい

と思います。

活動方針は、今年も、

ご恩報じを念じ 実のようぼくに育つ

一、教えを学び 身につける

一、身近な人を実のようぼくに育てる

一、百万会員を目指して にをいがけ・おたすけに励む

とし、

創立百十周年を目指して 一人が二人の会員をご守護頂きましょう

と掲げて歩みを進めている最中でございます。

「あしきをはらうてたすけせきこむいちれつすましてかんろだい」と私達が朝夕のおつとめでも唱えさせて頂くみかぐらうた第三節のお歌に明らかなように、親神様は、世界中の人間の心を澄まして、かんろだい世界、つまり、陽気ぐらし世界の実現をお急き込みくださっています。そしてそれが実現した時は、病まず死なず弱らずという、人間の常識を越えた珍しいたすけをしてやろうとまで思召されています。

告辞を述べられる婦人会長様

その深い親心に応える生き方は、教えの実行によって心のほこりを払い、胸の掃除を常に心がけて心を澄まし、何からでも人をたすける行いを実行することだと思うのです。

中でも一番重要なことは、つとめとさづけです。おつとめを心を込めて真剣に勤め、人のたすかりを願っておさづけを取り次ぐことによって、心のほこりを払わせて頂けると思うのでございます。

また、人をたすける行いは、おさづけを戴いていなくても、年齢に関係なく誰もが日常の中でできることです。人をたすける行いは、自分のことよりも人のことを思っています。

自分さえ良ければ、今さえ良ければという自己中心的な考えが消えている状態だと思います。それは親神様に喜んで頂ける姿でありますから、「人たすけたらわがみたすかる」というお言葉が、身にしみて分からせて頂けるのでございます。

また、陽気ぐらし世界を目指す道中である今の私達は、病気や事情で悩んだり苦しんだりするときがあります。周りに苦しんでいる方もおられるでしょう。渦中にいる時は、つらい苦しいばかりで、そこにこもる親神様の深い親心が分からないことが往々にしてあります。教祖は

「神さんの信心はな、神さんを、産んでくれた親と同じように思いなはれや。そしたら、ほんまの信心が出来ます」

と、親神様と人間は実の親子の関係だとお教えくださいます。子供が憎くて叱る親はいません。子供のためを思えばこそ、叱ったり注意をしたりするのですから、親神様の深い親心を探って、分かる努力をすることが大切です。そのお心が分かった時、喜びと感謝の心があふれてくるのです。それが真にたすかる姿だと思います。この真実の教えを、一人でも多くの方にお伝えさせて頂きましょう。

現在、創立百十周年会員決起の集いを各地域において開催しています。国内外三百七十七会場で開催しますので、全ての婦人会員は、参加しやすい会場へ足を運び、さらに、一人でも多くの方をお誘いして、参加して頂きたいと思います。

また、十一月三日には、「広げよう信仰のよろこびを　友達さそっておぢばへ帰ろう！」をテーマに、二十九回女子青年大会をおぢばで開催いたします。親神様のご守護のありがたさ、生かされている喜びを伝え、大会には一人でも多くの友達と共におぢばに帰って来てください。

「いちれつすましてかんろだい」と仰せられる親神様の世界たすけの道に、私達もその一役を担わせて頂き、少しでも役立つ実のようぼくへと育つ努力をし、その仲間を増やしていけるよう、勇み心いっぱいにお励みくださることを、また、来年四月十九日に迎える創立百十周年記念第百二回総会には、新たな会員をお連れして喜び心でお帰りくださいますことを、お願いいたしまして、告辞とさせて頂きます。

立教百八十二年六月二十三日

天理教婦人会長

中　山　はるえ

《原文通り》

大教会長様祝辞

本日は、婦人会笠岡支部の総会をかくも盛大に賑やかにつとめられましたこと、お祝いを申し上げさせていただきたい。

また、私自身も大変嬉しく思います。本当にご苦労さまです。有難うございます。

今回の婦人会長様ご臨席総会にあたりましては、本当に笠岡支部の皆さん方が一生懸命、つとめて下さいました。ご本部のお打ち出しに少しでも応えさせていただきたいとの思いから、是非とも婦人会長様にご臨席いただいての総会をさせていただきたいと聞かせていただきまして、ただ、その上については、大教会創立130周年の2年前の開催になるんだけれども、それでいいでしょうかと相談がございましたけれども、大教会の成人の動きに相違するものやら、別に邪魔するものやない、是非ともやってもらいたいということで話しを聞かしていただいて、今日の運びになった次第であります。それからの動きにつきまして、今、私が申し上げるまでもなく、先ほど、会務報告でも言ってくれました様に、本当にしょっちゅう、集まっては練り合い、談じ合い、又、巡回やら、本当に一生懸命、精一杯、勢いをもって、今日までつとめてくれました。本当に頑張ってるな、そんな思いを抱いておりました。本当に頑張った姿、勢いの姿が今日、この大勢の皆さん方のご守護に繋がっておるんではなかろうかと、かように思わせていただく次第でございます。どうぞ、親に喜んでいただきたい、少しでも親の心に添わさせていただきたいという、その思いで、この婦人会活動を進めております。

先程から何回も言っていただいておりますが、大教会の創立130周年を迎えさせていただきますが、その迎えるにあたっての合言葉というものが「陽気ぐらしを目指してたすけの輪を広げよう」。これは、今、繋がっているよふぼく一人ひとりがよふぼくとしての自覚を改めて持ち直させていただいて、よふぼくとはおたすけ人なんだということを、しっかり思い起こさせていただいて、先ず、しっかりと一人ひとりがたすけ心を持ってそのおたすけの実動をさせていただくことによって、その心を、姿を、一人でも多くの人に写していこうというのが、たすけの輪を広げようというスローガンになっておるわけであります。

ちょうど〝**ひながたをたどり 陽気ぐらしの台となりましょう**〟〝**身近な人を実のようぼくに育てる**〟その活動指針そのものが、正しく大教会の動きにも繋がっておるわけでありますから、せっかく今日に向かっての勢いが、勢いを持って今日まで進めてくださいましたので、今日で終わりじゃなしに、その勢いは、どうぞこれからも、来年の婦人会110周年、また、再来年の大教会の130周年、また、その先の教祖140年祭に向かって、その勢いは持ち続けて、勇んでつとめていただきたい、かように思う次第でございます。

その勢いを失わず、益々勢いを持って進めていただきますようにお願いを申し上げさせていただきまして、今日の祝辞とさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

今日は、おめでとうございます。

祝辞を述べられる大教会長様

参拝場を埋めつくす参加者（婦人会員だけで９４２名となった）

支部長挨拶

本日はお忙しい中を笠岡支部婦人会総会にご参集いただき本当にありがとうございます。

久しぶりの総会に、婦人会長様をお迎えして開催させていただけますことは、私にとりましてもこの上のない喜びでございます。会員の皆様のお心寄せの賜と、心から御礼申し上げます。皆様ありがとうございます。

このたび会長様をお迎えさせて頂く総会を開催させていただくにあたり、支部と致しまして、会員の皆様方の一手一つの勇み心を頂くことを心に、婦人会創立110周年を来年に控える今の旬に、一人でも多くの実働会員、教祖の教えをお伝えいただける方を増やさせていただきたいと、「前回の総会より倍の会員の御守護」を心に、歩ませていただきました。

今日ここに大勢の会員の皆様に御参加いただき、本当に有難く勿体ない思いで一杯でございます。

どうぞ今日の日を吉祥に、来年の婦人会創立110周年記念総会にむかい、さらなる成人の歩みを共々に進めさせていただき、親神様のご恩への感謝の思いを胸に、「実のようぼく」に育っていただける方々の丹精に、自らも育つ努力を心がけ、育てる丹精を続けさせていただきたいと思います。

又、ただ今各地域で開催されています「創立110周年会員決起の集い」への参加や、後継者講習会後の事後の参加者への丹精を含め、おたすけの出来るようぼくへの育ての上に、女性の徳分を生かし、笠岡支部婦人会会員心一つに、取り組ませていただきましょう。

そして2年後に迎えます大教会創立130周年記念祭に向かい、それぞれの家庭の台として揺るぎない心で真実をつくし、明るい家庭作りを心に、それぞれの自分に出来るおたすけを日々に心がけ、会員一人一人が、おたすけが日常のこととして身に付くよう、共々に精一杯努力させていただきたいと思います。皆さん一手一つにこれからも勤めさせていただきましょう。

本日は本当にありがとうございます。

挨拶を述べる支部長

◎式　典

☆式次第

一、親神様・教祖・祖霊様　礼拝
一、開　会　の　辞
一、会　務　報　告
一、支　部　長　挨　拶
一、婦人会長様御告辞
一、大教会長様祝辞
一、誓いのことば
一、婦人会会歌斉唱
一、閉　会　の　辞
一、親神様・教祖・祖霊様　礼拝

会務報告

立教179年4月より立教182年3月までの会務を報告させていただきます。

立教179年、教祖130年祭の年4月19日、婦人会本部総会におきまして「ひながたを辿り陽気ぐらしの台となりましょう」との婦人会員生涯かけての成人目標のもと、活動方針を

ご恩報じを念じ 実のようぼくに育つ

一、教えを学び 身につける

一、身近な人を実のようぼくに育てる

一、百万会員を目指して にをいがけ・おたすけに励む

と掲げ、日々結構にお連れとおりいただく親神様の御守護、教祖の親心へのご恩報じを日々心に置いて、にをいがけ、おたすけが日常のこととなるように勇んで歩ませていただこうと活動を勧めました。

翌年立教180年4月には総会の席上、婦人会長様より、「3年後立教183年4月19日婦人会創立110周年には、百万会員を目指した真実の歩みをご報告できるよう、婦人会員お互い励まし合い、勇ませあって、一人の会員が二人の会員を御守護頂けるよう、にをいがけおたすけに励みましょう」と、「親神様の元なる思召を忘れることなく、まず自分が実のようぼくに育つ努力をし、身近な人にしっかり信仰を伝え、実のようぼくに育てることに懸命に取り組むことを心に定めさせていただきましょう」とこれからの歩み方をわかりやすくお示し頂きました。

そして私達笠岡支部では、創立110周年にむかって、まずは委員部長自らが心の成人に務めて、信仰する一人一人が実のようぼくに、おたすけの出来る人に育たせていただくことを目指して、頂戴する立場の御用にむかわせていただき、その勇み心で婦人会長様をお迎えしての御臨席総会を開催させていただこうと談じ合いました。

その年8月より各委員部へ主立った支部委員が二人一組で巡回をさせていただきました。

百万会員を目指して110周年にむかって、2年後開催させて頂く婦人会長様御臨席総会に向けて、会員の倍の御守護を頂き、総会に1000人の会員参加の御守護が頂けますよう足並みを揃えて前進させていただきましょう、と誓いも新たに通らせていただきました。

婦人会本部より開催させていただくことになった委員、委員部長講習会では、活動方針に基づいたお話を聞かせていただき、その後持たせていただいた練り合いでは、「総会に一人でも多く参加していただくためには、委員部長が日々勇んで通るには」、等班毎に分かれて話し合い談じ合いを重ねました。

また毎月の例会では、午前中はおつとめ、午後は「おふでさき」や「おさしづ」に触れ、それに基づく思いを各々発表し、少しでも原典に親しむと共に、教えが日常の基本となるように共々に勉強させていただきました。また、理作りとしておつとめ後、大教会周辺を神名流しに出させていただき、声たからかに勇み心一杯に務めさせていただきました。

昨年の本部総会後には支部行事として、帰参者全員で東泉水プール前広場へ移動し、御臨席総会への実働の決意を込めて、支部長様を芯に、心一つに勇んで十二下りてをどりを務めさせていただきました。

また総会へ向けて会員の真実を寄せていただこうと「今日一日の感謝」と書いたシールを全会員一人一人に配布し、日々結構にお連れいただく感謝の気持ちを日々の理として務めていただくように伝え、各委員部の実情に応じて継続的に実施しました。

後継者の育成として委員部長後継者だけでなく、時には様々ですが、道の後継者である若い女性を対象に教理勉強、女鳴り物勉強会、おぢば開催の母親講座の受講など取り入れ、若い人たちの親睦の場ともなるよう年1回講習会を開催しています。

また若い世代の人たちと親交を深め親睦を図るため平成9年に「ひまわり会」と名付けた会を発足し、手作りの会報を発行し、毎月午前はおつとめ、逸話編の拝読をして練り合い、午後は教理勉強や作法、着付け、おつとめ練習、にをいがけ等幼い子供を連れての参加もあり、賑やかに楽しく活動して

います。

女子青年の活動としましては、働く女子青年も多い中、毎月少人数でも例会をもち、会報「つぼみ」を発行し、大教会の祭典まえの神饌物洗いのひのきしんを欠かさず務めています。

また毎月の祭典後にはコーヒー喫茶などをして喜ばれています。

本年11月3日、本部女子青年大会に向けて毎月の例会では「元の理」の勉強をし、年に1回は必ず開催している「こかん様に続く会」も昨年は、本部女子青年大会に向けて一人でも多くの女子青年に参加していただきたいと、おぢば開催、大教会開催と2回開催させていただき、大勢の参加者を頂き、委員、担当者共に大変喜ばせていただきました。

会務を報告する
門脇加津常任委員

このほか母親講座の開催や、昨年の中国地方での災害救援、また海外部で勤めている海外救援活動など、会員さん達の大きなお力添えを頂きながら様々な支部活動を務めさせていただいています。

次に会計報告をさせていただきます。

平成28年度	歳入	57万8296円
	歳出	46万1663円
平成29年度	歳入	47万1608円
	歳出	35万4753円
平成30年度	歳入	42万5138円
	歳出	26万0691円
歳入総額		147万5042円
歳出総額		107万7107円
差引残高		39万7935円

これを令和元年度に繰り越しいたします。

尚この3年間に、立教181年

4月21日　髙児島委員部長　瀬良 恵

5月12日　弥髙山委員部長　岡﨑 恵

以上2名の委員部長が、立教181年5月21日付で新たに任命されました。

会員数は平成30年度現在4297名となっております。

折しも大教会創立130周年の旬と重なり、お打ち出し頂いた「陽気ぐらしを目指して、たすけの輪を広げよう」を合い言葉に、まずは来年の婦人会創立110周年にむかって、一人が二人の会員を誘い合って共々におぢばへ帰らせていただき、その喜びを胸に教会に一人でも多くの会員さんがより集う賑やかな場となるようつとめ、婦人会員一人一人の力がたすけの輪となって、教会にとっての底力とならせていただけるように、心新たに歩ませていただきたいと思います。

最後に、会員の皆様方のお力添えを頂き、このたびも大過なく無事務めさせていただきましたことを厚く御礼申し上げ、会務の報告とさせていただきます。

ありがとうございました。

日程

※行頭は計画段階での予定時刻。［括弧］内は、実際の時刻。婦人会長様が新幹線を下車ご予定の駅に手違いが起こり、おつとめ開始時間を15分遅らせた。

8：30　受付開始

9：15　婦人会長様ご到着［9：36］

9：45　おつとめ奉仕人着座完了

［9：50］

10：00　おつとめ［10：15］

11：30　おつとめ終了予定［10：43］

（婦人会長様 お召し替え）

DVD上映（10分～15分）

12：00　式典［12：07］

13：00　式典終了［13：00］

弁当配布、模擬店開始

記念写真（おつとめ奉仕人のみ）［13：07］

客間へ移動

会長様よりお言葉（全委員部長）［13：45］

（おつとめ奉仕人更衣）

14：00　アトラクション 開始

［14：00］

15：30　終わりの挨拶［15：15］

16：00過ぎ［16：15］

婦人会長様ご出発

誓いのことば

婦人会創立110周年を来年に迎えるこの時旬に、親神様・教祖の大きな親心とお導きを頂戴し、本日婦人会長様の御臨席を賜り、天理教婦人会笠岡支部第24回総会を開催させて頂けました事はこの上ない喜びでございます。

〝婦人会長様をお迎えしての総会を務めさせて頂きたい〟との笠岡支部長の声をもとに、この笠岡に繋がる私達会員共々が、仕切って日々に心をつくらせて頂き、今日の日を迎えさせて頂きました。只今は婦人会長様より親心溢れるお言葉を頂戴し、誠にありがとうございました。おぢばの理を頂いて頂戴いたしました婦人会長様のお言葉を、しっかりと心に治めさせて頂きたいと存じます。

私達婦人会員に「**ひながたをたどり 陽気ぐらしの台となりましょう**」との成人目標のもと、

ご恩報じを念じ 実のようぼくに育つ

一、教えを学び 身につける

一、身近な人を実のようぼくに育てる

一、百万会員を目指して にをいがけ・おたすけに励む

と、活動の角目をお示し頂いております。

今から20年程前、前婦人会長様をお迎えしての笠岡支部総会より、積み重ねた時間の中で、自分がどれだけの成人をさせて頂けたのか、心もとない限りではありますが、このお道に、この笠岡に繋がらせていただき、談じ合い、勇め合い、祈り合う事の有難さを心から味合わせて頂いております。

本年秋に第29回女子青年大会が、ご本部にて開催されます。柔らかい心を十分に持ち合わせている年頃だからこそ、身に付けられる感激を、多くの仲間と共に味わって貰えるよう、声を掛け合い、共におぢばに帰らせて頂きます。

婦人会長様に向かい
誓いのことばを述べる

また、2年後に迎えようとしている笠岡創立130周年記念祭並びに六代会長就任奉告祭へと歩みを進める中に、親々の伏せこまれたお徳を我が子へ、信仰の心躍る喜びを日々見つけ、その喜びの種を次代へ末代へと繋いで貰える伏せ込みを、心を込めて勇んで務めさせて頂きます。

折に触れてお見せ頂く節の中に、教祖がいつも温かく進むべき道を教えて下さいます。時代が流れ世界が変わっても、親心溢れる親神様の天然自然の御恵は変わることはありません。

なぜ婦人会を創められたのか、親神様の思召を改めて心に治め、謙虚な心を忘れずに、それぞれがお与え頂いている役割を、女性の徳分を生かし、互いに諭し合い、陽気ぐらしの台となれるよう一手一つに勇んで歩ませて頂きます。

只今の時旬に国内はもとより海外でも会員決起の集いが開催されています。来年4月婦人会創立110周年総会に、おぢばでお待ち下さる教祖の元へ、本日、集まった会員共に参加させて頂けるよう、一人が二人でも仲間を連れて帰らせて貰える苦心をさせて頂きたいと思います。

今日、この笠岡にお集りくださった会員の皆さん、このお道にお引き寄せ頂いて良かったと喜べる日々を共に歩ませて頂きましょう。

婦人会長様にはこの上ともに、お導きくださいますよう、心よりお願い申し上げまして、誓いの言葉とさせて頂きます。

立教182年6月23日
会員代表　上　原　千枝子

式典後、婦人会長様からお言葉を賜る委員部長たち

役割

・総務
支部長、上原順子、今川佐智子

・庶務会計
今川佐智子、岡﨑豊子、武内ゆり

・司会
武内正美、上原千枝子、常井二三代

・受付
岡﨑豊子、中村初美、内海安子、笹尾一美

ブロック
枝廣陽子、渡邉美恵子、余村八重美、高信貴子、内海純子

賛助会員
劔持秀子、三宅みどり、村川久美子、三島志起子

・会場
田中つかさ、小坂百合子、今川直子、西村由理子、渡邉恵子、渡邉芙佐子

賛助会員
楠めぐみ、中村好江、枝廣孝子、森本裕子、森本真紀、菅波照子、米山貞子、山本節子、西村千津子、山本政江、池田立恵、三宅順子、日下聡子、横山望、井上千春

・おつとめ
横山小智榮、上原順子、谷内美知子、高木孝子

ブロック
福島時子、藤本知加子、三代美音

・記念品
門脇加津、岡﨑豊子

・弁当湯茶
岡﨑和美、淺野はるえ、福田明見、上原美可

ブロック
福島サキコ、金光まい子、武内博江、三代彩華、三代すず、谷本祐三子

賛助会員
江原昌子、崎谷眞佐美、樋上郁子、田中美幸、藤井光子、吉岡晴子、高木稔子

・神饌物
三島照美、虫明好美、杉原美津枝、中村幸子、室悦子

賛助会員
松浦幸子、三島瞳、笹尾恵理、西本光恵、笹尾朋子

・記録放送
門脇加津、桑田恵美子、桑田茜、藤井里奈

・食堂
中村理恵、谷内鈴江、谷内きよ、上原照美、上原久美、山野なつ、中島育子、上原宏恵、佐藤和代

・記念行事

模擬店・アトラクション
桑田恵美子、藤井理恵、瀬藤三幸、武内まさみ、福島里恵、仙田真美、杉本悦子、丸山哲子、岡邦子、中西与志子、田中舞

女子青年
田中旬、山野ちさと、日南住彩

ひまわり会
中村美由希、田中みゆき、矢田恭子

・接待
岡﨑和美、田中ますみ、今川佐智子、吉岡八恵、森本ひふみ、岡﨑恵、猪原ひとみ、上原理子、森本和子、鳥居けい子、門脇はづき、岡﨑真実、猪原有理

・救護
平野澄子、杉本葉月、小川小百合

・カウント
武内さつき、武内ゆかり、上原望美

・式典

開会　三島照美

会務報告　門脇加津

ちかい　上原千枝子

閉会　杉原美津枝

弁当（助六寿司）

記念品・パンフレット・弁当券

各係の記録と反省

※日付の前に「昨」とあるのは一昨年、他は昨年の日付。

▼司会係

【準備】

・2月中に前回の司会原稿を参考に原稿を作る。

・4月19日、本部婦人会総会の司会を参考に原稿見直し。

・6月2日、式典リハーサルで原稿見直し。

・特に注意……おつとめ・式典の時の拍手（かわで）。

【当日】

・8：30　司会開始

・婦人会長様ご到着が遅れる事になり、急きょ開始15分遅らせる。

・その後は予定通り進むが、婦人会長様のお仕込みの時間が長くなり、また時間がなくなり、少し心配しましたが予定通り終り有難かったです。

▼受付係

【準備】

・プログラムの内容・紙質・色・大きさ・字体を検討。

・3月21日、プログラム完成。1300部（大人用）。

・3月31日、模擬店チケット・弁当券（1500作成）、少年会用福引券（300部）完成。チケット・弁当券は別に準備。

・4月3日、セロハン（透明）袋に記念品等詰めるひのきしん。「No.0001～No.0100」等（これが当日、数を読むのに良かった）、13ヶ箱詰する。

・婦人会長様・随行先生お二人、大教会長様の4部はお初を支部長に渡しておく事。

・昨12月21日、1回目、参加人数集計、1300名余。

・5月21日、2回目、参加人数集計、1400名余。

【当日】

・6月22日9：00　受付机6台（高屋分）、内2台、外テント用、設置。丸椅子8ヶ、賽銭箱各々1ヶ設置。養生シートを敷く前に玄関を念入りに掃く。外テント（机2台分）を張る事をお願いする。

・6月23日7：30　係集合。前日、突然の雨の為、養生シートが濡れた為、きれいに拭き取る。100ヶ単位に箱詰めされたプログラムを運ぶ（少年会用も）。

・8：30　受付開始（接待係、会場係には前もってプログラム渡す）。

・9：50　第1回集計、弁当係へ。

10：50　第2回集計、弁当係へ。

11：50　第3回集計、弁当係へ。

12：50　第4回集計、弁当係へ、ほぼ終了とする。

・参加人数：1421（婦人会員：942、男性：235、少年会員：244）。

※係員の声：神殿玄関階下・外テント共に、総会開始10～20分前頃、少々の混雑はあったがスムーズに流れた。ひのきしん人数、受付台数も良かった（来賓用1台）。

▼会場係

【準備】

・神事部に神殿周りの戸を外してもらうようにお願いする。

・青年会……駐車場・神殿正面玄関の横看板。真府の会長さんに垂れ幕の作成お願いする。大きさを測って枚数も。殿内の垂れ幕は長くならないよう、鴨居までで治まる長さに（成人目標・スローガン・決起の集いの案内・110周年記念総会の目標スローガン）。

・ピロティーのブルーシートは6月3日の婦人会の午後、出して拭いた。

・ゴミ箱用のダンボールを集めておく（7×3＝21箱）。

・1号室は車椅子で入ってもらうため、養生シートを半分ほど敷いてもらいました。ソファーも1つ置いた。

・ソファーは廊下に置いた（トイレの入口近く）。

・1階玄関の戸のカギを開け忘れたため、1ヶ所からしか入る事が出来ず、事前にどなたかに責任をもってお願いしておくべきでした。

・聴覚障害者席を殿内に作り、喜ばれました。

・神殿の廊下にパイプ椅子70と将棋椅子4つ置きました。

・椅子席は殿内に低い椅子を役員先生用に6つ、弥高山よりお借りしました。

【当日】

・写真の時、11人横に並んでもらう予定が、2列目・3列目10人しか並んでおらず、バランスが悪かったのが残念、反省。

・子供が廊下の結界を越えて客間近くまで歩いて行ったので、一人は客間の入口の所に立っておいてもらう方が良かったかも知れません。
・殿内、なかなか前に詰めてもらえず苦心しました。素直に動いて下さる方が本当に有難かったです。
・赤いお揃いのポロシャツが係と分かりやすく良かった。
・係で何度か集まりをもって看板を作ったり、お花は各自でもって帰って作ってきてもらったり、賛助会員さんには当日までも当日も本当にたすけて頂きました。有難かったです。
・雨が降る事なく本当に嬉しく思いました。
・福引きのヤリ方を少し考えてほしかった。最後に大きいものを持ってきてほしかった。
・模擬店の数が足らなかった(唐揚、焼きそば)。
・お天気が良く、カンカン照りでもなく、本当に良かった。
・ステージのお花が良かった。
・玄関に飾るお花は前もって準備(手配)しておくと良い(外にプランターを置く)。
・おやじ会のような会をもう一度立ち上げてほしい。声を掛ければひのきしんに出て下さる方がおられると思う。
・会場係の人の配置をもう少し考えた方が良い(神殿に立ってもらう人は特に気を付ける事)。

▼おつとめ係

【準備】

・昨6月3日午後から大教会長様。
・昨9月7日9：30～12：30　今川・上原志先生。
・昨12月2日9：30～12：30。
・3月3日12：30～14：30　大教会長様。
・6月2日9：30から、おつとめ衣・教服で上段への上り下りの練習。交替の時、スムーズになるよう確認し合う。他、下でのリハーサル・写真撮影への移動・客間への移動などのリハ。
・当日の着替えの部屋割りをして部屋の外に名前を貼る。帯：座づとめ大教会夏帯18、前半髙屋夏帯22、後半福山夏帯21。教会名と持主の名前を記入した帯に、借りる人の名前を記入して、責任をもって返してもらうよう伝える。
・前日に鳴物(三味線・胡弓)の糸を替えておいた。

【当日】

・当日のおつとめは、練習の成果もあり、良く揃ってきれいだったとこのと。
・当日、気温は6月にしては涼しい曇天で、前日のような激しいスコール風の降雨もなく良かった。
・熱中症を案じて神殿裏側に給水とブドウ糖補給の机を秘かに準備しました。
・上段の廊下側の障子を途中で開けに立った。先生方の背後になるので閉めていたのだが、風が入らないので会長様が汗を拭いておられたらしい(今後、状況により検討)。
・取り掛かりが前回よりも大幅に遅れたので、かなり焦りましたが、皆さん、係の人達の誠実かつ自主的、熱心な働きで無事に終える事が出来ました。
・各人、この間を通して、いろいろ苦労や悩みもあったと思いますが、それだけ、当日の喜びと感動も大きかったようです。過密スケジュールだっただけに、最後の練習日のリハーサルは必須だったと思います。

▼記念品係

【準備】

・昨3月2日、常任で記念品は何が良いか案を出し合う。一般記念品→婦人会員＋男性(子供はなし)。
・2月19日、フリクションボールペン(単価154円)×1300個、ネットで注文。4色(ピンク、パープル、ソフトブルー、ホワイト)、各325本ずつ。ペン軸、印刷、1色刷り。箱入り、印刷有り。
・3月18日、笠岡大教会へ納品、到着。
・4月3日、プログラムと記念品を袋詰め作業。

【当日】

・以下を6月29日に配布。
・直轄教会長及びおつとめ人の男の先生方→黒角帯。
・前委員部長及び常任委員→正絹帯〆・帯揚げセット。
・部内委員部長→正絹帯〆。

▼弁当・湯茶係

【準備】

・3月、弁当を助六寿司(巻寿司4ヶ、いなり3ヶ)、税込321円が値引きで224円(1000食以上の注文)になった。シノブフーズ(岡山県総社市)へ

依頼、確認。
・4月、お箸・ビニール袋、ゴミの回収方法について話し合い。
・5月、お茶・ペットボトル（500㎖39円）。ザ・ビッグ大門店に注文。１２００本（24本入×50箱）。
・6月、シノブフーズに弁当、最終注文、１４７０食。

【当日】
・9：30　係集合。
・10：30　弁当到着、１４７０食。食堂で袋詰め（弁当・箸・おしぼり）、20人程で30分で終了。
・11：30　係員昼食。
・11：50　式典。
・12：50　式典終了→弁当配布３ヶ所（受付テント、１階玄関、食堂）。
・13：40　受付テント・１階玄関撤収、食堂のみ。
・注文１４７０、受付１４２０。50残のはずが120余った。
・最後まで残ってひのきしんして下さった男の方々に弁当を配った。
・早く食べに来る係（模擬店の人）が非常に多く、食堂がいっぱいになった。
・他、反省点は多々あるが、弁当配布に関しては、皆さんのお陰でスムーズに、大きなハプニングもなく、無事つとめさせて頂けて良かったです。

▼神事係

【準備】
・2月3日、例会日、神饌物を募る。東城よりキャベツの御供。
・3月3日・21日、係で相談。
・4月20日、神事部に総会の事についてお願いする。御供物15台、餅に替えブッセ（婦人会）、魚は鮭。
・5月21日、係で前日・当日の動きを相談。
・6月、注文は神事部にお願いする。
・6月20日、調饌・献饌・撤饌ひのきしんをお願いする。

【当日】
・式典後、神饌場に集合して頂き、お下がり・ブッセなどを配る。
・ブッセ＋折鶴箱（金平糖入り）の方を袋に入れ、福山・髙屋・4号室・婦人当番室・役員夫人室・会長宅・食堂・接待室へ持っていく。
・神殿の裏で分けて、各教会にメロンかパインのどちらかと、甘夏・ビワ・トマト・黄パプリカをナイロン袋に入れてカゴに入れておいておく。持って帰られたら、お下がり配布表にｖを入れてもらうようにしておく。
・先生方・皆様方にお手伝いして頂いてスムーズに出来ました。有難うございました。

▼行事係

【準備】
・昨3月3日、例会日。係顔合わせ。各ブロックの係も決まり、何度も集まり模擬店とステージの内容をどうしていくか話し合った。欠席の人へはグループラインや書面で配布。
・模擬店→各ブロックで担当。
・ステージ→各ブロックで10分位で考えてもらう。
・模擬店券・弁当券・会場案内図・注意事項等、デザインしてネットで注文→１４００枚１６０００円位。
・支部長様より、真柱様より頂いた〝浴衣地〟を何か活かせないか？と相談あり。皆と話し合いを重ね、巾着を作り、ステージで七福神の福まきに使う事になる。各自、委員部で持ち帰り、図面をもとに各自で縫って仕上げて集める。600ヶ。
・ステージ最後、福引きをする事になり、各委員部へ景品になるような品を募り、持参してもらい（100ヶ位）、係で仕分け、上位のみ買い足す。
・6月2日、ステージリハーサル。

【当日】
・時間はほぼ予定通り進めた。並行して模擬店も大体予定通り。
・14：00　ステージ開始。女子青年ダンス、司会自己紹介。
・14：05　光ゲンジ（有志男性）。
・14：10　島根：銭太鼓・傘踊り・マツケンサンバ。
・14：25　髙屋：委員部長のパフォーマンス。
・14：35　西：七福神。
・14：45　福引き開始。
4等：扇風機×２
3等：ビール×３
2等：神石牛×２
1等：鴎風亭入浴＆お食事ギフト券×２
支部長賞：テレビ×1。
・支部長様あいさつ
・特別賞：岡﨑豊子奥様が引く。詰所宿泊フリーパス×1。
・残り100ヶの番号発表。
・15：15　閉会あいさつ（岡﨑豊子奥様）。

▼模擬店係

【準備】

・各ブロックに依頼する前に、係としてどのような品・メニューが良いか考える。お弁当（助六寿司）が各自・配布されての副食として、麺類やデザート系など。食数も、最初500ずつと考えていたが、参加者多数となり700にまで増やした。

・テント設営は管理部の先生方へお願いする。雨天の場合も考えて、晴れても雨でもとギリギリまで分からなかったのですが、結局、立ててもらい、当日晴れたけど、そこで休憩してもらうようなスペースを作り、良かった。青年会も手がないと言われる中、管理部を始め、いろいろな先生方に何度も打ち合わせを重ねて準備して下さり、本当に有難かった。

【当日】

・14：00　模擬店開始（模擬店チケット：1人3枚ずつ配布。どれでも3ケもらえるようにする。）

ぶっかけうどん（東）	700食	残40	
わらび餅（西）	700食	完売	
からあげ（福山）	592食	完売	
焼きそば（高屋）	700食	完売	
アイスクリーム（島根）	800食	残150	

こんにゃく田楽（上府）

ドリンク（女子青年）：ジュース（260本）は100円、ノンアル（96本）は150円で販売。　残148本

・15：15　順次、完売の店は終了、片付け。

最終片付け。

▼接待係

【準備】

・5月に入って客間のエアコンやトイレの水などの確認を始める。

・6月9日、打ち合わせ（当日の流れを確認）。

・物品準備。

・役割分担表・タイムスケジュール作成。

・6月16日～当日まで、毎日、客間の掃除や物品準備。

【当日】

・いきなり、会長様のご到着が遅れるというハプニングがありましたが、とにかく、会長様に喜んで頂けるよう精一杯努めさせて頂いた。

・初めて接待係になった人が多く、おつとめから記念写真までの、ベテランの接待係が居ない間、田中ますみ奥様が指示をして下さったので良かった。

・暑い時期だったので熱いおしぼりより冷たいおしぼりをたくさん準備した方が良かった。

・〝お言葉〟の時に誘導の方に手いっぱいになり、お茶をお出しする事が出来なくなってしまった。

・記念写真のあと、雪駄をすべて片付けてしまっており、お見送りの時に、理事先生のはきものが無く焦りました。

・遠方の方や働いておられる方などの諸事情で、全員が集まって打ち合わせをする事が出来なかったので、色々と不安はありましたが、無事、お接待させて頂けて良かったです。

好天に恵まれ、中庭で喫食する参加者

講堂も所狭し...

仮設舞台で演じられた余興

会員の声

▼福満委員部　福島悦子

御臨席総会に、要約筆記付きで、失聴の私は、出席して、初めて、会長様のおことばを聴くことができた。聴障者に、特別のご配慮を頂き、厚く御礼申し上げます。

50年辛抱して漸く筆記と、憎まれ口呟きながらも

髪洗い明日の総会待ちおりぬ

要約筆記の予告のありてと勇んで参加した。設えてある「聴覚障害者席」は、私以外の方で満席、千人もの集りの中聴こえにくい人は多勢いて当然、要約筆記者の席だと云っても、通じない。聴こえぬ者は「手話」が通念になっていて、要約筆記の普及が、おくれていることを痛感した。

2人の筆記者が来て、教外の方と判り、少し危惧したが、「この日の為に、本を借りて勉強した」、と、「みちのだい」2冊、いいことが書いてあると云った。教外の、笠岡市要約筆記認定士を選んで下さったことは、「にをいがけ」、「要約筆記者の存在」、「聴障者支援」の、一石三鳥の効果があったと、重ねて、お礼申し上げます。

▼亀田山委員部　高橋たみ

6月23日、素晴らしいお天気のご守護を頂かれまして、第24回婦人会笠岡支部総会に婦人会長様のご臨席を頂き、賑やかに盛大につとめられました。笠岡支部長様はじめ皆々様の婦人会総会に掛ける想いがひしひしと心に伝わって参りました。本当におめでとうございました。

私達島根ブロックのアトラクションのお稽古は、納得のいくまで回を重ねて練習が出来たように思います。舞台上だけでなく婦人会長様の御前で披露させて頂けたことは、一生のいい思い出になったと、出させて頂いた者、皆、口々に言っておりました。親に喜んで頂けることは、何であろうとありがたいことです。

私事ですが、久し振りに笠岡大教会へ帰らせて頂きました。亀田山委員部26名、参加させて頂きました。なんだか遠足に行く気分で、乗車するとすぐにお話が始まり、あっという間に大教会へ帰らせて頂きました。久し振りに婦人会の団体に参加して下さった婦人から、「いつも見馴れた方ばっかりですね」と言われてドキッとしました。御神言に「育てば育つ。育てねば育たん。」と聞かせて頂きます。

天理教婦人会の成人目標「**ひながたをたどり 陽気ぐらしの台となりましょう**」、このスローガンは私にとりましては、永遠のものです。この目標に向かって頑張らせて頂きます。ありがとうございました。

▼笠岡委員部　谷本祐三子

婦人会長様御臨席総会のお話をお聞きして、私は必ず出席させて頂きたいと思っていました。時間が経ち、私に出来る事があれば、ひのきしんをさせて頂きたいと思うようになりました。

その事を事前に和美奥様に伝えると「ありがとう。いろいろあると思うのでお願いします。」と言われました。6月に近づき、講社祭で、お弁当係に決まった事を告げられ、よし精一杯させて頂こうと心に決めました。

勤務調整をして休みを取り、当日は係の集合時間に食堂へ行きました。メンバーの紹介と係の役割が告げられ、食堂でのお弁当配布に私はなりました。

お弁当の袋詰めの事前準備係の方には、早目にお弁当を配布しました。参加者の方々への配布は、皆様方のご協力でスムーズに行う事ができました。遅くに来られる方もおられると思い、私は持ち場を離れる事が出来ませんでした。もう片付けても良いとの指示があり、きちんと片付けを終えました。

婦人会長様がお帰りになると、放送がありました。まだ食堂にいた私は神殿の玄関に急いで行きました。お見送りの際に、こんな間近でお顔を拝見出来てとても幸せな気持ちでいっぱいになり、胸が熱くなりました。この気持ちは不思議な位あたたかかったです。

ひのきしんは喜び心で、日々の暮らしも前向きに明るく過ごせる様に、頑張りたいと思います。

余興に花を添えた
有志男性による「光ゲンジ」

大教会長様おはなし（無題）

1・20年頭会議において

立教183年大教会年頭会議は、1月20日午後2時から大教会神殿で行われ、役員・部内教会長・布教所長らが参集した。

大教会長様は、記念祭に向かう三年千日活動2年目に入った年頭に当たり、真柱様年頭のごあいさつを引用され、「道を通る基本」とは何かを、あらためて考え、私たち一人ひとりの日々の信仰的な動きは、人がたすかるようにコツコツとつとめること、その理作りが不可欠であるとして、実践項目の一つひとつを意義あらしめるべくつとめることが本意であると、その徹底を促された。その後、講堂で会食がもたれた。あいさつの要旨は次の通り。

なお、「読んだだけ」にならぬよう、要約ををよく読み込んで、大教会長様の思いを汲み取り、必ず、実動に移していただきたく、敢えて「無題」といたしました。

▼真柱様年頭あいさつ

真柱様は冒頭、新年のあいさつを述べられ、昨年1年間の一同の務めをねぎらわれたうえで、「1年前を振り返ってみると、少しずつ体のほうも回復しているように思う」と話された。

続いて、昨今の道の状況に鑑（かんが）みて、「私たちの基本、道を通り後に続く人をしっかり育てていくうえにおいて、歩み方の中で基本となるところを、だいぶ忘れてしまっているのではないか。だんだんと流されてしまって、『まだ大丈夫やろ』と思っているうちに、気がついたら今のようになってしまったというような気もする」「前真柱様はよく、この場で、『去年よりも少しでも成人させてもらいたい』というようなことを、まずはお話しくださっていたように思う。それは大切なことなので、惰性というか、流れにまかせてしまわないように、つとめていただきたい」と述べられた。（時報４６５１号）

昨年は、大教会の創立130周年記念祭並6代会長就任奉告祭に向け、三年千日と仕切っての歩みの1年目として、「陽気ぐらしを目指して、たすけの輪を広げよう」を合言葉に、百万件のにをいがけ、そして、それを通して、一教会、一名以上の初席者をご守護いただこうと、実践項目を掲げて、ともどもに成人の歩みを進めました。

皆、それぞれに、一年間、精一杯つとめられたものと思います。大変、ご苦労さまでした。また、ありがとうございました。

今年は、その2年目に当たり、昨年の2つの活動方針に、「おさづけを身近に」を加えて、3つの実践項目でもってつとめるうえから、その徹底を図りたい。

▼道を通る基本とは何か

今年一年、ともどもに成人の歩みを一手一つに進める当たり、先ず、年頭の真柱様のごあいさつを検証したいと思いますが、「基本を忘れてしまっている」と仰いました。

道を通る基本を忘れてしまっているので、後に続く者も育てられていないということかと思いますが、この道を通る私たちの基本とは一体何でしょうか。

これは、初代の信仰の姿を、あらためて思案してみれば分かります。初代は、たすけられ・お道のお話しを聞き分けられ、親神様のおはたらきをしっかり思案して、かしもの・かりものの喜びいっぱいに、ご恩報じとして人だすけの道を歩まれた。これが初代の信仰の基本です。

この道は人だすけの道ですから、この道を通る・歩む基本は、人をたすけること、「人をたすけて我が身たすかる」が基本です。これを忘れてはいないかとの真柱様の仰せだと思案したい。

▼どのように「育てる」のか

―「理作り」を忘れてはいないか

（私たちは）確かに、間違いなく、この道を通っています。にをいがけし、おさづけもお取り次ぎし、信者には声掛けして別席を運ばせ、よふぼくにもなってもらっています。しかし、そうして通っているが、肝心要のたすけの本質が薄れていないだろうかということです。

例えば、別席では、同じ話しを9回聞く内に、たすかりたいからたすけたいという心に切り替わって、その心におさづけを頂戴しますが、果たして話

切々と思いを述べられる大教会長様

しを聞いただけで、本当に心が入れ替るのかどうか、心が入れ替ったうえにおさづけを戴いているのかどうか、あらためて思案していかなければいけません。

同じ話しを9回、ただ聞いていれば心が入れ替るのではありません。運んでいるときに、運ばした方の理の親は、一体、何をしているか、理の親が、心が入れ替るような理作りができているかどうかという問題です。

別席の話しを聞いている間に、お願いづとめをしたり、ひのきしんをしたりしていれば、多少は理作りもできましょうが、その間、何もすることがないからと、ぼーっとしていたのでは、何の理作りもできなくなります。中席になると、毎回、同行するわけではないので、送り出しただけで、お願いづとめなどをしているだろうか。別席で心が切り替わるようにと、理の親が、ちゃんと理作りとして何かをしているだろうかと、あらためて考えていかなければいけません。

それが「育てる」ということで、どう育てる(育てあげる)かも分かっておかなければいけませんが、「おたすけ人に育てあげる」とするなら、それはどういうことになるのか、「育てあげる人間が、おたすけの理作りをしっかりとしているのかどうか」を考えていかなければいけません。そういう一つひとつが、果たしてできているかどうか。

初代の人たちは、理作りを、とことんしてきました。――別席を運べ・おさづけを戴け・修養科へ行けと言うだけではなく、送り出したからには、その人が間違いなくおたすけ人になるように、その間、(理の親は)しっかりおたすけをし、しっかりひのきしんをし、しっかり理作りをして、おたすけ人になれるように、つとめてきたのが、初代の通り方ではなかったのか。

私たちは、日々の生活の中で、その一つひとつができているのかどうか、そのことが「基本」だと、真柱様は、この一言で仰ったのではないかと、あらためて思案したい。

修養科へ送り出したら、修養科で何もかも教えてくれると思い込んでいないだろうか。――その3ヶ月間、毎日、お願いづとめをしているだろうか。3ヶ月でおさづけを戴けるように、心の入れ替えができるように、ひのきしんをしているか、お願いづとめをしているか、おさづけもしているか。――その一つひとつを、お互いにしっかりと思案し、反省して通っていかなければいけません。

▼自分だけが、してみただけの日々・月々の歩みになっていないか

そのたすけのうえに一番大切な角目として教えられているのが、つとめとさづけです。

つとめは、さすがに、毎日、朝夕のおつとめをしていますし、毎月の月次祭もしています。しかし、それも、おつとめをするための理作りが、果たしてどれだけできているだろうか。それに向けて、日々のおたすけがどれだけできているだろうか。そのことも考えていかなくてはいけません。

おつとめをつとめること自体が目的になってしまって、おつとめを通して何をするのかという目的がなくなってしまってはいないか。――たすかってもらうためのおつとめ・おつとめによってたすかってもらうということが大前提になく、おつとめをしただけで目的が果たされたように思っていたのでは、おつとめをする意味が薄れてしまいます。

そういうことが、だんだんとよふぼく・信者の心にも映っていっていないか。月に1回のおつとめをしただけで、満足していないか。おつとめ奉仕人の一人ひとりが、今日のおつとめを迎えるために、日々の理作り、おたすけをしてもらっているか。

皆さん方の立場のうえからいえば、そういうことを、自分自身だけではなく、教会・布教所に繋がる一人ひとりに、ちゃんと理作りをしてもらっておつとめにしていかなければ、本当の意味での目標・目的を果たすことにはなってきません。

そして、もう1つのおさづけは、9

度の別席を運べば頂戴できますが、おさづけを戴くことが目的になってしまって、おさづけを頂戴したことで満足していないか。

「おさづけを戴いたら、今日から、神様の御用をする一員・立派なおたすけ人だ。これから、毎日、1回でも多く、しっかり、おさづけを取り次ごう。」と声を掛ける。それで、おさづけを取り次げないなら、自分がおさづけを取り次いでいる人のところにいっしょに連れて行って、「ここに困っている人が居るから、今日はあなたが取り次ぎなさい。」と言ってでも、手を引っ張ってでも、おさづけを取り次いでもらえるように育てているかどうか。

それが、「おたすけをする人を育てる」という目的に繋がり、「おたすけをする」という目的を果たすことになってこないか。――目的は、一体、どこにあるのか。信仰をするとは、一体、どういうことなのか……、よくよく思案しなければいけません。

代が重なれば、毎月の行事・日々の行事が目的になってしまって、行事をすることで満足はしていないだろうか。行事の一つひとつは、すべて、ちゃんとした目的があってなされている。――「おたすけ人へ育つ」・「おたすけ人に育てあげる」ための行事でなければ、行事倒れになってしまいます。

行事したことに満足していたのでは、本当の目的は果たされません。

行事をすることよりも、それらを通して、一人でも多くのおたすけ人を育てあげることが目的だと、あらためて思案したい。

▼承知するまで、何度でも呼び掛ける

私たち（教会長・布教所長）は、その先頭に立って、後に続く者を育てあげる立場です。自分さえすればよいのではありません。自分一人だけして満足していてはいけません。

何度言っても、なかなか言うことを聞いてくれないから、引っ張って連れていってでも、育てていかなくてはいけません。

教祖のひながたを思い起してください。教祖を月日のやしろになされるとき、三日三晩、神様と中山家の押し問答を繰り返されました。なかなか、中山家に承知してもらえませんでしたが、たすけるためには、何としてでも、承知させなければいけませんでした。

人間創造に当たってもそうです。道具を寄せて人間を造られましたが、その道具も、最初は断っています。それを懇々と諭して、承知をさして貰い受けて道具とされています。

つまり、そこには、世界一れつをたすけるためには、何としてでも、この人が必要だ。何としてでも、この人を神さんの御用に使う人に育てあげねばならないという思いが強かったのです。

私たちは、教会に寄り来る人々を、何でもどうでも、育てあげなければなりません。その強い意志を、しっかりと持たなければならないお互いです。

▼皆が取り組んで、たすけの輪が広がるように徹底する

「100万件にをいがけ」も、「自分は一生懸命している」ではいけません。自分もするが、教会・布教所に繋がる人、皆にしてもらうのです。

「1教会に1名の初席者」も、教会・布教所に繋がる一人ひとりが、皆が、「私がこの教会に、初席者一名をご守護いただこう」という気持ちを持てるようにしていかなければいけません。

2年目の「おさづけを身近に」――「おさづけを取り次ぐ」と言えば、よふぼくに対してだけの言葉になってしまいますが、「おさづけを身近に」は、おさづけを戴いていない人は、1回でも多くおさづけを取り次いでもらう、おさづけに、とにかく親しんでもらうということ。――これが「身近に」の意味です。

よふぼくに対しては、とにかく、おさづけを取り次げるように、しっかりと声を掛け、導いていく。おさづけを戴いていない人に対しては、「よふぼくに『おさづけを取り次いでください』と声を掛けてください。」と、余さずに、声を掛けて、おさづけを戴いていない人がよふぼくにおさづけを取り次いでもらえるように、その徹底を図りましょう。

教会長・布教所長さんは、その徹底を図る立場です。教会・布教所に繋がる一人ひとりに、みんなに、しっかりと伝えていってほしい。

そうすることによって、たすけの輪が広がっていきます。そのことを、今年1年、常に心に持って、やり切ってもらいたい。

なお、「100万件にをいがけ」について、戸別訪問がにをいがけだと思い込

んでいる人が、まだまだ多いようですが、日々、ほんのわずかなことでも、何か人のたすかりを願って動けば、それらすべてが、100万件にをいがけに繋がってきます。

人を元気付ける一言だけでも100万件にをいがけの1件ですから、年配者でも、体の不自由な方でも、笑顔一つで人だすけはできます。

100万件にをいがけは、人をたすける心さえあれば、誰でもできるということを、よふぼく端々にまで徹底して、実践していただきたい。《以上要約》

春季大祭講話
明治20年の節に学び 神一条に心定めて歩もう
世話人　島村廣義先生

立教183年大教会春季大祭は1月21日、大教会長様祭主のもと役員・部内教会長・布教所長・よふぼく・信者ら多数の参拝のもと執り行われた。

ご参拝くだされた世話人・島村廣義先生は、明治20年の節について、『稿本 天理教教祖伝』「第十章 扉ひらいて」から当時の状況を詳しく引用され、親神様の思召と先人たちの内心との隔たりに注目して、私たちの求めるべき道筋について念入りにお話しくだされた。要旨は次の通り。

明治20年の節について
詳しく話される世話人・島村先生

▼明治20年の節に教えられること

ただ今つとめた春季大祭は、教祖が子ども可愛い故、定命を25年縮めて現身を隠され、御存命の理をもって働かれるようになった元一日の理をもってつとめるお祭りです。

そこで、今日は、あらためて、その元一日を振り返って、思召される親心を思案したい。

教祖は、世界一れつをたすけるためにつとめを教えられました。そして、さづけを渡され、また、ぢばをお定めになって、人々を挙って導かれ、ひたすら、つとめの完成の道を進められました。

そうした中に、教えは次第に広まって、教祖をお慕い申し、ぢばへと向かう人々は、年ごとに増えてまいりました。

しかし、同時に、無理解な人々の反対・攻撃や官憲の迫害・干渉も激しさを加えて、教祖の御身にも、十数度にわたる警察・監獄所への御苦労が降りかかることになりました。

しかし、教祖は、常に「節から芽が出る」と仰せられ、いそいそと獄舎にお出掛けになられたばかりか、たすけを急き込まれる親心は、些かも変わることなく、つとめの実行を促されました。

人々は、御高齢の教祖の御身に厳しい官憲の迫害が降りかかるのを案じるあまりに、急き込まれるおつとめの実行を逡巡するうち、明治20年1月、教祖の御身に身上が見られるようになりました。

（以下、御伝第十章から抜粋して引用されて話された。）

そこで、本席様を通して、思召の程を伺うと、「人間思案ばっかり交えて物事を考えて、親神様のお話しを素直に聞かない、肚（はら）の底から聞く心になれないという、それは実に残念な事だ。親神の言う事が嘘なら、49年前（天保9年）以来、この道が続いて居る筈が無いではないか。親神の道が正しいのか、世間の人間思案が正しいのか、よく思案せよ。聞分けができないようなら、をやはもうこのまゝ息を引きとって了うかも分らんぞ。」との仰せでした。「この時、教祖は、息をせられなくなった。お身上が急に冷たくなった。」と誌されています。

教祖のお身上の変化に打ち驚いた人々が思召を伺うと、そのご真意は一貫して、つとめの実行のお急き込みで、その翌日、「をやの身上に異状を見せて急込んでいることの真意を、各自、心にしっかり悟りとれ。」と仰せられ、「もう、どうせいこうせいのさしづはしない。銘々心次第。もう何もさしづはしないで。」と、何とも厳しいお言葉が下がりました。

その当時の人々にしてみれば、差し

迫っている事態の治まり、すなわち、教祖のお身上の平癒こそが、願いだったでしょうが、親神様がお求めになっているのは、教祖の身上を台として、何のためにおつとめをお急き込みになっているのか、その場その場の事情に振り回されたり、心を奪われるのではなく、もっと根本的な理のうえでの思案、すなわち、教祖が、月日のやしろに定まられて以来、教えられてきたことに基づいて、各自、自分たちでしっかり思案せよと仰いました。

親神様のお急き込みは、おつとめをすることと承知しながら、教祖にたすけられ導かれて通ってこられたその当時の人々にしてみれば、教祖の御身に及ぶ御苦労を思うと、すぐさま、言われた通りにおつとめを実行することに、なかなか、踏み切れませんでした。先人たちの心中、これは、誠に胸詰る思いです。

さらに神一条の道と法律との間で苦悩される先人たちが、双方の道が立つようにと伺うと、

さあ〳〵月日がありてこの世界あり、世界ありてそれ〳〵あり、それ〳〵ありて身の内あり、身の内ありて律あり、律ありても心定めが第一やで。（M20・1・13）

と、すべての物事の成り立ちと、その順序を諭され、最も大切な判断の基準――親神様に通ずる誠の心の定め方を諭され、続いて、

さあ〳〵実を買うのやで。価を以て実を買うのやで。（M20・1・13）

と、親神様の自由自在のご守護を頂くには、皆々が真実の限りを尽して事に当たらなければならないと諭されました。

陰暦正月25日夜、教祖のお身上勝れられず、にわかな御容体の変化に驚いて、本席様を通して御神意を伺うと、

扉を開いて地を均らそうか、扉を閉まりて地を均らそうか〳〵。（M20・2・17、陰1・25）

とのお言葉が下がりました。

人々は、扉を開いていた方が陽気で良かろうとの思いから、「扉を開いてろくぢにならし下されたい。」と返答されると、「道と世界の事情が立て合ってきた。親神様が世界たすけの道をつけるために、皆、この屋敷に引き寄せてきた。このような状態で扉を開いて世界たすけに働きに出たなら、ころっと道の様子が変って来る。」と仰いました。

翌陰暦正月26日は、立教の元一日、縁の日ですが、従来から、おつとめをつとめてこられた日で、厳しくなる警察の取締、一歩踏み違えると、ご身上中の教祖が拘引される危険さえある、こうした状況の中で、

さあ〳〵一つの処、律が、律が怖わいか、神が怖わいか、律が怖わいか。この先どうでもこうでも成る事なら、仕方があるまい。前々より知らしてある。今という刻限、今の諭じゃない。どういう処の道じゃな、尋ぬる道じゃない。これ一つで分かろう。（M20・2・18、陰1・26）

と、お言葉があり、正午頃、教祖のお身上が急転したので、人々は、意を決し、命捨ててもとの決心で、初代真柱様のお心に添い切って、おつとめをつとめられました。

陽気な鳴物の音を満足気に聞いて居られた教祖は、十二下りの最後のお歌が了る頃、現身をお隠しになられました。

絶望のどん底に投げ出された人々が、本席様を通して、おさしづを伺うと、「今から世界を平な地にする。今迄に言うた事は、実の箱に入れて置いたから、いよ〳〵親神がやしろの扉を開いて出たからには、総て現われて来る。子供可愛いばっかりに、その心の成人を促そうとて、まだこれから先二十五年ある命を縮めて、突然身をかくした。今からいよいよ、世界を駈け巡ってたすけをする。しっかり見て居よ。今迄とこれから先と、どう違うて来るか確り見て居よ。」とのお言葉が下がりました。

おさしづに、

二十六日というは、始めた理と治まりた理と、理は一つである。（M29・2・29）

世界一れつをたすけるために天降った立教の元一日の思召と、子供の成人を急き込まれるうえから定命を25年お縮めになり現身を隠されたをやの心は、ともに、子供可愛いうえからのことで、まったく、をやの思いは同じであると教えられます。

教祖は、お姿こそ隠されましたが、お亡くなりになったのではなく、扉開いて、世界をろくぢに踏み均しに出られたのです。御魂は永遠に存命のまま、元の屋敷に留まられ、私たち人間の一層の成人を促されるとともに、さらな

る積極的な世界たすけに踏み出されました。

そして、

これまで子供にやりたいものもあった。なれども、ようやらなんだ。又々これから先だん〳〵に理が渡そう。（M20・2・18、陰1・26）

と、広く、おさづけの理を渡されるようになりました。

長々と、教祖存命の理をもって働かれるようになった元一日の事情をお話ししましたが、親神様の思召・お心は、世界いちれつをたすけあげ、陽気ぐらしさせたいという思いです。

この事情は、たすけ一条の道の根本であるおつとめを、お教え通りにつとめることの大切さを、先ず、教えられたこと。

そして、たとえ、いかなる障害があっても、思召に添い切るという固い心定め。

さらに申せば、教祖の教えられたところに基づいて、ひながたをものさしにして、自らが思案し、判断し、心定めて実行するという姿、自立です。言われたからする・言われなければしないというのでなく、いかなる障害があっても、自ら、一つ、神一条の信念を貫き通し、教祖のひながたを頼りに、たすけ一条に、しっかり、つとめ切るという心定めを、私たちに求められているのだと思います。

▼教会の現況からみる反省点と今、すべきこと

さて、立教183年も明け、一昨年6月、真柱様がご身上になられてより、ずっと公にお姿を見せられませんでしたが、昨年末の月次祭後の暮れのあいさつに続き、今年1月4日、恒例の年頭のごあいさつの席へお出でになり、親しくおことばをくださいました。本当に久し振りに、真柱様のお顔を拝し、また、おことばを拝し、本当に嬉しく思いました。

その節、真柱様は、次のようなおことばをくださいました。（ここで「時報4651号より、真柱様年頭あいさつ」を引用。）

130年祭をつとめ終えて、これからの歩み方を思案するとき、何にも増して、道の将来を担う人材を育成する必要を強く感じると、真柱様は話されています。

私は、よく人に、「あなたの家の信仰はどういうところから始まっているか。お道を信仰するようになった元一日は、どういうところからか。」と尋ねますが、意外と知らない人が多い。親から、それをちゃんと聞いていない方が大変多いのに驚きます。

私たちも、今日、親から信仰を受け継いでこの道を通っていますが、受け継いだものを、（先ず）私たち自身が、しっかり、その道を通り、（次に）後に続く者にそれを伝えていくという、それぞれの時代時代の責任・私たちのしなければならないことがあると思います。

そういうことの詰めが甘く、ついつい、『まだ大丈夫やろ』と思っているうちに、気がついたら今のようになってしまっ」ていたということですから、信仰が伝承されていない結果です。

教会の現状をみてみても、多くの教会長家族が働いてるという実状があります。働くにはいろんな理由がありましょうが、その中で、しっかりと信仰を引き継いでいくということが、割となされていません。

教会から働きに出ていれば、朝夕、神様に手を合わせて、一日のお願いなり御礼なりをするでしょうが、教会外に住んで、神様をお祀りしていないとなると、未信者と同じように、知らず知らずに一日が始まり一日が終わるというような状態になってしまいます。気が付いたら、信仰を忘れてはいないが、「親の跡を、私がします。」ということには、なかなかなってこないのが、現実の姿でしょう。

これは、親の責任として、しっかり、子供たちに道を伝えていくことが大切です。

教会活動が盛んなところは、必ず、住み込みさんがいます。教会長家族だけではなく、身上や事情を抱えた人を教会に預かって、一緒に生活しながら、そして、その生活の中で、教会生活を実際に見せて連れて通り、年限掛けて、一人前に育てていくということで丹精し、よふぼく・布教師を育てていかれた、その先輩たちの通ってこられた姿が、今日までのお道を支えてきていると思います。

しかし、今、だんだんと、そういう教会が少なくなってきています。お道の中でも、だんだん核家族化し、住み込みさんがいるという教会が少なくなって、教会の実態が、教会長さん家族だけしかいない。しかも、働きに出

ているとなると、真柱様が「気がついたら今のようになってしまった」と仰るような姿・そういう状態に、気がつく前からなっていたということです。

それでは申し訳ないと。一つ、「去年よりも少しでも成人させてもらいたい」と教えられた前真柱様の思い、自分たちも、しっかり、その心で通らねばならんと、年頭に話されています。

笠岡大教会は、創立130周年の活動の中の年です。（その日を迎えたときに、）「をやのお入り込みを頂いて、喜び勇んで、130周年をつとめられた。」・「これから仕切って、新しい塚を目指して頑張ろう。」と喜び合えるかどうかは、この2年目に、どれだけやれるか、この年の頑張りに掛かっていると思います。

活動方針が打ち出されていますが、よふぼく一人ひとりが真剣になって、これをどれだけやりきるかが、笠岡のこれからの将来に大きな影響を及ぼすことになると思います。しっかり、おつとめを頂きたい。

婦人会が創立110周年の年を迎え、婦人会長様は、婦人会員100万を目指して、その活動を婦人会員に促されています。婦人会員というのは、少年会員を除く女性、全員が会員ですが、「これは婦人会の御用だ」というのではなく、教会を挙げて、一つ、応援したい。皆で、婦人会の活動を盛り上げて、勢いをご守護いただきたいと思います。

また、5月には、後継者・明勇さんがお嫁さんを頂かれますが、縁あって、私が仲人をすることになりました。これも笠岡にとっては、明るい、また、本当にうれしい、一つの大きな節です。

一つ、思い残すことのないように、本年は、精一杯、その活動をつとめ上げて、来年の130周年を喜びで迎えられるように、ご踏ん張りいただきたい。

《以上要約》

親里管内学校 受験合宿 実施

笠岡詰所にて

学生担当委員会

笠岡学生担当委員会（山野弘実委員長）は、2月5～7日まで、親里管内高校受験世話取りを行った。

今回は、教校学園高校の受験生3人、スタッフ3人、保護者2名が参加した。受験生らは、おぢば到着後参拝、受験会場下見を行った。詰所では、自己紹介、学習指導、教語の確認、お手直し、面接練習などの時間が持たれ、入学試験本番に臨んだ。

2泊3日を通して、受験生スタッフ共に、同じ笠岡に繋がる者同士の絆を深め、見事全員が合格を果たした。

お手直しする学生担当委員の先生も真剣!!

合格を予感して、全員で笑顔の記念撮影

春季大祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます
親神天理王命の御前に　会長上原理一　慎んで申し上げます
親神様には一列人間の陽気ぐらしを楽しみに　泥海より道具を寄せ守護を教えて夫婦を始め　八千八度の生まれ替わりを経てこの世と人間世界を御創造下され　以来今日まで親心のままに自由のご守護を下さっております　加えて天保九年には教祖を社としてこの世の表に現れ　親心とこの世の真実を明かし　ひながたを示して陽気ぐらしへとお導き下さり　尚且つ明治二十年には教祖御身お隠しなされて　私達の成人をお促し下さいました事は誠に有り難く勿体ない極みでございます　身上事情を通してこの道にお引き寄せ頂いた私共は　親心にお応えすべく　ご恩報じを念じて日々は助け一条のご用の上にに努め励ませて頂いております
その中今月二十六日は教祖が御身お隠しなされてろくぢに踏み均しに出られた忘れ得ぬ日に当たり　おぢばでは春の大祭が執り行われますので　当教会でも理のお許しを戴いて　只今よりおつとめ奉仕人一同　感謝の心一杯に座りづとめてをどりを勤めて立教百八十三年の春の大祭を執り行わせて頂きます　御前には折柄の寒さを厭いませず　今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が　共にお歌を唱和し日頃のご高恩に改めてお礼申し上げ　変わらぬ親心にお縋りする状をご覧下さいまして　親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます
さて本日は世話人島村廣義先生に御参拝頂いております　後程時旬に当たってのおぢばの声を聞かせて頂き　おぢばに沿った成人の歩みを進めて行く上での指針とさせて頂く所存でございます
又　昨年から始まった記念祭並びに奉告祭に向けて三年千日と仕切っての成人の歩みも二年目に入り　昨年より一歩前進すべく　昨年の活動目標「百万件のにをいがけと初席者一名以上」に「おさづけを身近に」を加えてより一層の成人を期す所存でございます　年頭に当たり真柱様より「道の歩み方の基本を忘れている」とお聞かせ下さいました　「人助けて我が身助かる」との基本を胸に陽気ぐらしを目指し　しっかりとたすけの輪を広げられるよう　成人の歩みを進めて行く覚悟でございます　加えてその徹底を図る上から今月は直轄教会の大祭参拝をさせて頂き引き続き二月三月にかけて部内巡教もさせて頂きます
何卒親神様には　自然環境の変化　新しいウイルスの発生　国同士の覇権争い等　心煩わせる事の多い中　神一筋に助け一条に励む皆の誠真実の心をお受け取り下さり　万たすけの上に尚一層自由のご守護を賜りまして　真実の親心に触れ一列兄弟の理に目覚め世界中の人が欲を忘れて助け合って　お望み下さる陽気ぐらしの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を　一同と共に慎んでお願い申し上げます

ご報告

10月中旬に教会本部より「台風19号」に伴う災害の募金実施が発表されました。笠岡大教会に於きましても、募金の受付を10月21日の月次祭より始めました。その結果10月26日に2万2千円、11月の26日には17万円、12月26日には26万２１３０円の募金を本部道友社に運ばせて頂く事が出来ました。真実の募金を有難うございました。

笠岡大教会

立教百八十三年 春季大祭 祭典役割表

祭主	大教会長様
扈者	中村剛
	門脇元教

講話	島村廣義先生

賛者	高木昭祥
	山田敏教
指図方	佐藤道孝

三月講話	中村剛

役割＼区分	坐り勤	前半	後半
地方	佐藤道孝	谷内伸自	上原志郎
	今川昌彦	吉岡誠一郎	横山逸郎
	内海史郎	渡邉隆夫	田林久嗣
おつとめてをどり	大教会長様	上原明勇	門脇元教
	上原明勇	杉原博之	三島渉
	上原繁道	上原浩	中村道徳
	大教会奥様	武内正美	門脇加津
	田中ますみ	内海安子	吉岡八恵
	虫明好美	中村初美	田中つかさ
笛	森本忠善	浅野明教	上原繁次
ちゃんぽん	中村剛	岡﨑真一	内海史郎
拍子木	吉岡壽	高木昭祥	虫明立生
太鼓	山野弘実	武内清明	佐藤真孝
すりがね	中島誠治	山田敏教	岡田誠
小鼓	岡﨑真一	赤木素志	三代温生
琴	佐藤香苗	岡﨑豊子	高木孝子
三味線	上原順子	森本冨美子	室悦子
胡弓	今川佐智子	横山小智榮	笹尾一美

大教会だより

◎教人資格講習会修了者

立教183年2月10日終講

稲倉　頼　多美子

訃報

西村總子姉

瑞雲分教会4代会長夫人

12月6日出直されました。

享年　75才

鳥谷秀夫氏

出雲分教会長

12月18日出直されました。

享年　90才

橘高俊子姉

國須分教会長夫人

12月27日出直されました。

享年　92才

昨年6月に開催された、婦人会笠岡支部総会に向けて、『笠岡支部のあゆみ』と題した映像を制作した。

婦人会本部とほぼ同じ、100年を超える笠岡支部の歴史をまとめる上で、貴重な写真や手書きの資料、証言などを収集した。そこには、上原さと初代会長時代から今日まで、歴代婦人会長様にお入り込み頂く度に、進展を続けてきた笠岡支部の足跡があった。

特に昔の写真は、集合写真だけでなく、裏方の厨房や受付係の様子、本部の先生との談笑や余興の様子など、賑やかな声が伝わってきそうなものが多くあった。今の様に、大きな建物ではないけれど、笠岡に繋がる皆が、親に喜んでもらおうとする、一手一つの雰囲気が、しみじみと伝わってきた。

そして、現在。笠岡は、来年大きな節目を迎える。これは、私たち一人一人が、約130年間先人先輩方の繋いできたバトンを、しっかりと受け継ぎ、任された区間を走り、次に繋ぐ努力をするタイミングに他ならないと思う。先人の時代においても、その時なりの困難や苦労があったはず。時代や風潮のせいにせず、まずは、笠岡に繋がる全員が、昨年よりも少しでも成人した姿になれるよう、勇ませ合って歩んでいきたい。

（う）

第4回桜まつりアフリカ支援バザー
開催のお知らせ

笠岡大教会海外部主催

開催趣旨

日本より遠く離れたアフリカの地に、笠岡につながる用木信者の支援する孤児サポートNGO団体がいくつかあります。アフリカでのエイズ・マラリア・貧困による孤児の増加は深刻で、これらを救援するには多大な力を必要とします。自分一人では“砂漠に水一滴”の力にしかならないものも、力を合わせることで何かを動かすものになると信じ、毎年、孤児たちを支援する目的でバザーを開催しています。

昨年も多くのお心寄せを頂き、成功をおさめることができました。今年も例年同様に開催させていただきます。

日時

2020年4月5日（日）　午前10時～13時30分

場所

笠岡大教会　中庭周辺

バザー物品寄贈のお願い

収集物品

＊衣類（大人服は新品に限ります　子供服は状態の良いもの）
＊日用品（瀬戸物の単品は不可）
＊家具・電化製品（不備のあるものはお返しすることもあります）

収集期間

2月21日～3月29日

物品搬入について

搬入の際には上原志郎にご一報下さい
場合により、物品を頂きに出向くことも可能です

お問い合わせは　0865-66-1311 上原志郎まで

有志スタッフ募集

アフリカ支援に興味のある方
物品整理、会場設営、当日の運営に参加できる方

皆様のご参加をお待ちしております

出店者募集

飲食模擬店・商品販売店の出店
材料費を差し引いた売上金をご寄付下さることが出店の要件となります